

CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report

2008



CONTENTS

-
- 01 編集方針
 - 02 企業理念 会社概要
 - 03 トップインタビュー
 - 05 KIMOTOの製品と社会
-

ステークホルダー満足のために

- 07 お客様のために
 - 11 株主のために
 - 12 従業員のために
-

よき企業市民として

- 15 地域社会への貢献
 - 17 安全への貢献
 - 18 環境保全活動
-

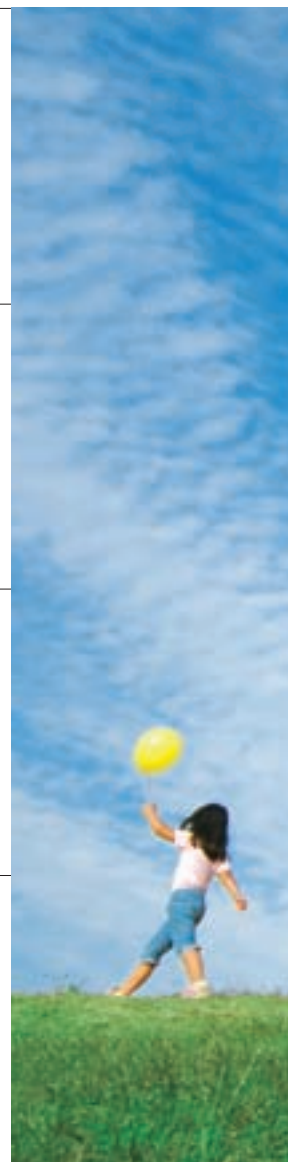
KIMOTOのCSR体制

- 22 CSRを企業活動の核に
 - 23 コーポレート・ガバナンス
 - 24 コンプライアンス
-

- 25 子会社での取り組み
- 26 編集後記

編集方針

この「CSRレポート」は、KIMOTOの2007年度(2007年4月～2008年3月)の社会的貢献活動についてまとめた報告書です。本報告書は、KIMOTOのステークホルダーの皆様、すなわちお客様、株主・投資家の皆様、地域住民の皆様、お取引先の皆様ならびに従業員各位にお読みいただきたいと考えております。



企業理念

KIMOTOは、技術開発型の企業として
グローバルに発展することにより、
顧客・株主および従業員の満足を得ることに努め、
地域の発展と繁栄に寄与し、地球環境をまもり、
未来に向けて社会と共に前進します。

会社概要

名称	株式会社 きもと	工場	三重県いなべ市、茨城県古河市
所在地	160-0022 東京都新宿区新宿2丁目19番1号	技術開発センター	埼玉県さいたま市
設立	昭和27年7月2日	国内子会社	株式会社 キモテクノ（東京都） 株式会社 グラフィカ（沖縄県） 株式会社 ケー・プランナー（北海道）
資本金	32億7,400万円	海外子会社	KIMOTO TECH,INC.（米国） KIMOTO AG（スイス） KIMOTO POLAND Sp. z o.o.（ポーランド） 瀋陽木本実業有限公司（中華人民共和国） 稀本商貿(上海)有限公司（中華人民共和国）
従業員	628名（平成20年3月末日現在）		
営業拠点	本店／東京都新宿区 支店／札幌市、仙台市、さいたま市、名古屋市、 大阪市、広島市、福岡市 営業所／つくば市、那覇市 海外事務所／台北（台湾）		

3つの部会で 社員参加型の活動を

——CSRの取り組みを開始してから3年が経過しました。社長ご自身の思いからお聞かせください。

丸山 特定の部署を作って専任をおくという形ではなく、いわゆる組織横断的にできるだけ多くの人に参加してもらおうということでスタートしました。社内公募を含めて3つの部会、各10名くらいとして、3年間で

70名から80名に関わってもらいました。全社員の割強に参加してもらったことになり、ほぼ考えていた方向に進められたと思っています。

——CSRといえば、従業員をはじめとするステークホルダーを企業の側に向けさせたいということでスタートする企業も多いようですが。

丸山 KIMOTOの場合も従業員との意識の共有化がきっかけでした。社員一人ひとりが、活動をととして経営陣が考えもつかな

コンプライアンス部会、環境・安全部会、品質・PL部会…。

3つの部会からなるCSR委員会を立ち上げて3年。

KIMOTOのCSR活動は、KIMOTOとグループ会社をも

巻き込んで、着実に根づこうとしています。

CSR活動の先頭に立つ丸山良克社長に

トップの思いを語ってもらいました。

一人ひとりの 目線を大切にし、 KIMOTOらしい 実直なCSR活動を

代表取締役社長

丸山 良克

い発想を導き出し、新たな行動に結び付けられたらと考えています。

——この数年の活動で特に印象に残っていることがありましたら。

丸山 CSR委員会のメンバーには女性が結構多いのです。部会の活動や発言を見ると、女性が熱心かつ楽しそうにやっています。少子高齢化とともに女性の活用が課題となっています。女性管理職の数はまだまだですが、CSRの分科会を見ていると数年後に

管理職が務まりそうな女性が目に付きます。

——社長ご自身も地域活動をされていると聞きましたが。

丸山 16年ほど前に今の住所に引っ越したのですが、ひょんなことから町内会の役員をやることになり、現在も続けています。公園掃除や道路清掃、防災訓練などのほか、秋には町内対抗の運動会も行われます。雑用係ですが、仕事を離れての活動も結構楽しいものです。

環境の意識を 一人ひとりに広げる

——京都議定書がよいよ実行段階に入りました。KIMOTOにおける環境への取り組みについてもお話しいただけますか。

丸山 KIMOTOも環境・安全部会を中心にCO₂の排出量の削減について議論を進めています。各部署に目標を振り分けるというようなことも必要だと考えています。部署ごとに議論を進め、2010年をメドに成果を出したいと思っています。

——昨年、環境・安全部会のメンバーになられた方で、自宅でも省エネを心がけるようになったという発言がありましたか。

丸山 本当に必要なのは個人の意識を変

えることですね。環境先進国といわれるヨーロッパなどと比べると、まだ意識の差はあると感じています。われわれも地域の中でエコバッグの奨励や、分別の徹底によるゴミの減量化をとおして、地道に意識改革を進めています。

——KIMOTOの製品は石油を主原料にしているものが多いわけですが、使用量の削減などは可能なのでしょうか。

丸山 スローガンとして掲げてもちかなり難しいところがあります。前期まで環境部会長だった取締役によれば、KIMOTOの場合、削減の取り組みで一番効果が上がるのは工程中のロスをなくすことだと言います。捨てるものをなくすことで材料の使用量を減らすことができます。廃棄物の減量だけでな



く、歩留りのアップやCO₂排出量の抑制にもつながります。また、工場では一部の電力をまかなうためソーラーの導入を考えています。工場のボイラーの燃料を重油から天然ガスに切り替えることも検討しています。——ほかにはどのような取り組みをされていますか。

丸山 KIMOTOの製造工程では有機溶剤を大量に使っています。廃溶剤を一部回収してリユースすることはすでに実施していますが、他の取り組みとしては、塗料の高濃度化、無溶剤化により有機溶剤の使用量そのものを減らすことを進めています。

将来を見据えた課題

——石油由来の原材料を使われて、いろいろな製品を作られています。将来的にはいかがでしょうか。

丸山 われわれの業界でも、植物由来の合成樹脂を使うことを検討しています。ただ、原油の高騰でバイオエネルギーが注目され、穀物等を合成樹脂の原料にするのは難しい状況となっています。私どもの必要とする石油の量は、発電や自動車に使う量と比べ

るとごく少量ですから、現状では、歩留りを上げて無駄を少なくすることの方が重要です。

——本業をとおした貢献もありますね。

丸山 KIMOTOは機能性フィルムのメーカーですから、世の中に役立つ製品を開発していくということが最大の使命です。KIMOTOの製品には学校や保育園等の窓ガラスに張って冷暖房の効果を高めるものや、太陽電池関連の材料もあります。これらの製品をとおして省資源や省エネルギーに貢献していきます。

——地域貢献としていろいろなイベントをやっていますが、これからも続けられますか。

丸山 地元出身者が多いこともあり、工場のある地域と良好な関係を保つことは極めて重要と考えています。三重工場では2年前から少年野球大会「KIMOTO杯」を開催しています。このようなイベントは可能な限り継続したいと思います。そのほかでは、最近ポーランドに工場を造りましたが、日本にはなじみの少ない国だけに、両国の文化の橋渡しができないかと考えています。

KIMOTOらしい取り組みを今後も実直に続けていきます。

KIMOTOの製品と社会

KIMOTOの製品はこんなところで使われています！

薄型テレビ、携帯電話、OA機器、カメラ、印刷資材、広告、掲示板、地理空間情報システム——えっ、こんなところに、と思える意外なもの、意外な場所でKIMOTOの製品が活躍しています。今日、あなたはいくつのKIMOTOに出会うでしょうか。

グラステクト

紫外線カット機能を持つ飛散防止フィルム。窓ガラスに張ること
で日射の熱を抑え、災害時のガ
ラス飛散防止にも役立ちます。



衝撃破壊試験

ディラッドバナー

動画と文字・イラスト・写真を組
み合わせることで、新しい
スタイルのバナー広告を実現。
背面投影用スクリーンにプロジ
ェクターで投影します。



カーボンフェザー

カメラなど光学機器関連の
遮光(絞り)フィルムとして開
発。ポリエステルフィルムを使
用し、導電性、寸法安定性に
優れています。



ラクリーン

光触媒セルフクリーニングフ
ィルム。太陽と雨の力でフィルム
表面に付着した汚れを自己洗浄
し、紫外線もカット。いつまでも
窓や看板の美しさを保ちます。



試験施工(中央が貼付部分)

地理空間情報システム

地理情報の活用目的に合わせ
たシステムの導入、データの作
成から活用までをトータルに支
援。企業の施設管理や行政など
の効率化に役立っています。



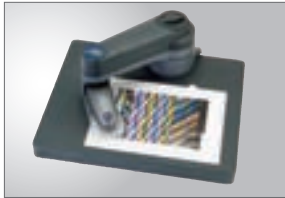
ディラッドファイバー

高性能タッチパネル機能搭載
の大画面リアル体感ユニット。
明るい部屋でも鮮明な画像を
実現し、プレゼンテーションや教
育用機器に最適です。



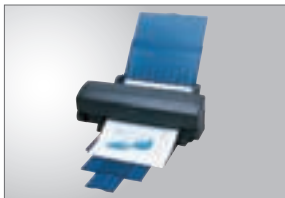
カラーマネジメントツール

色情報を数値化する測定器と色情報が記述されたファイルを使い、異なる機器間の色再現を近づけるためのツールです。



キモプレート2+キモセッター

最新の印刷環境に対応するノンケミカルプレートと低価格の専用プレートセッターによる最新の印刷用CTPシステムです。



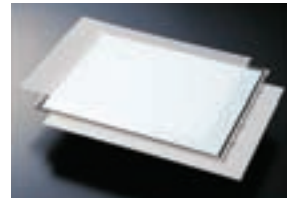
キモテクト

プリント基板を製造する際のプロセスに使用されるフォトマスク保護用粘着フィルム。耐久性に優れています。



ライトアップ

薄型テレビや携帯電話などの液晶パネル用に開発された光拡散フィルム。光拡散効果により、液晶画面の輝度の均一性が得られます。



KBフィルム

家電製品やOA機器の操作ボタンやタッチパネル面に用いられるハードコートフィルム。表面硬度が高く、耐久性にも優れています。



インクジェットメディア

屋内・屋外の広告用に使われる大型インクジェットメディア。ポスターやデパートの垂れ幕、看板街路灯バナーなどに用いられます。



お客様のために—1.より良い品質を

品質は、お客様が求める満足の基本です。私たちは、お客様が求める以上の品質を常に目指し、全社をあげた品質マネジメントの周知徹底に努めています。

株式会社きもと 品質方針

(株)きもとは、製品の設計・製造・販売及び機能性フィルム事業部門で扱う商品の販売を通じて、良き企業市民として、地域の発展と繁栄に寄与し、顧客・株主並びに従業員の満足を得ることを目指し、以下に当社の品質方針を定める。

1. 要求事項への適合及び法規制を遵守し、品質マネジメントシステムの有効性について業務の標準化を追求し継続的に改善する。
2. 「顧客の求める水準で安定した品質」「顧客の満足する価格」「顧客の求める納期」を追求し、顧客ニーズに適合した製品、商品及びサービスを提供する。
3. 品質方針の周知徹底を図り、従業員的一致団結のもとに信頼性の高い開発型企業を構築する。

代表取締役社長 丸山 良克

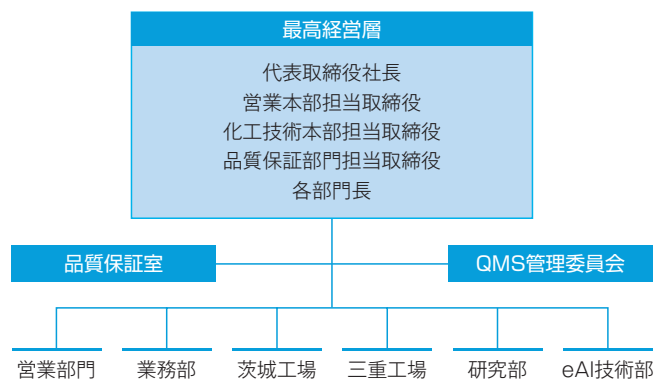
ISO活動状況

KIMOTOは、フィルムを表面加工した高付加価値製品および関連する機器類の販売を行っている「機能性フィルム事業部門」と、ソフトウェアの開発や地図データ入力を行っている「情報システム事業部門」の2つの事業部門に分かれております。

そのため、ISO9001も2つの事業部門に分かれておりましたが、2008年3月、審査の効率化や有効性向上を目的に1つに統合いたしました。さらに、機能性フィルム事業部門においては、3部署を新たに拡大登録しております。今後も、さらに、登録範囲を拡大し、品質と顧客満足度の向上に努めてまいります。

なお、統一したISO9001は、統括品質管理責任者が全体を統括する体制となっております。

■QMS組織図



品質に関する意識調査の実施

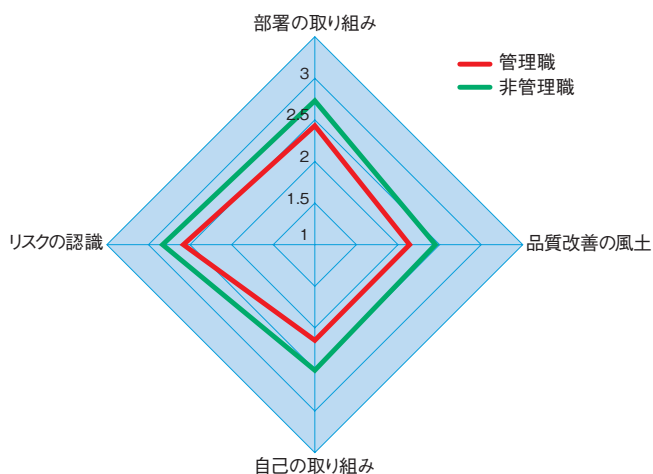
CSR委員会の品質・PL部会において、「社員品質意識調査」を行いました。目的は、社員の品質に関する意識を調査・分析し、その結果を元に改善・提案活動を行うことにより、顧客満足度の向上・企業価値の向上につなげることにあります。調査期間は2008年2月6日～20日、回答者は572名でした（回答率約90%）。

調査は、品質に関する①リスクの認識 ②部署の取り組み ③品質改善の風土 ④自己の取り組み の4区分についてそれぞれ複数の質問を設け、1（そのようなことは全くない）～5（全く、そのとおりである）の五つの選択肢を選ぶ方式で行われ、数値が高いほど品質に対する取り組みや改善ができていていることを表します。

結果の一例（右図）からは、4区分のすべてにおいて、管理職が高いハードルを設定しているために、現状については厳しい認識をもっていることがわかりました。

今後は、今回の調査結果を元にした活動提案等を行い、顧客満足度および企業価値の向上につなげていきたいと考えております。

■調査結果（職位間比較）



製品の安全対策(PL分科会活動)

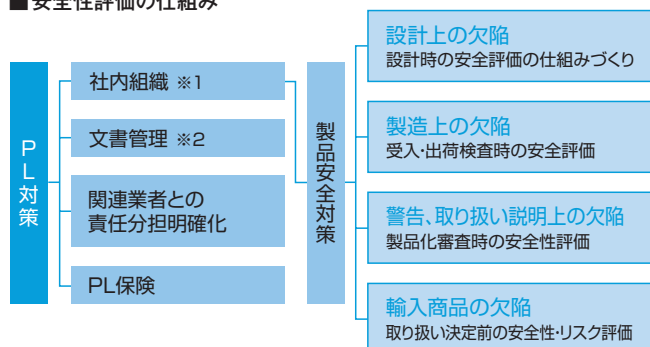
製造委託品の安全性評価からスタートしましたPL分科会は、機能性フィルム事業部門の製品（製造委託品含む）、輸入商品、OEM商品まで評価範囲を広げ活動を行いました。

2007年度は、製品43件、うち製造委託品5件（商品については3月より審査範囲に追加）の安全性評価を行いました。KIMOTOの製品は、主に特定の専門家向けのため、不特

定多数の一般消費者が取り扱う物ほど安全性が厳しくありませんが、一部の物は不特定多数の一般消費者（特に子供）が取り扱うことを想定しており、リスクの抽出および対策には複数の目が欠かせません。

今後は、商品も対象範囲に広げたこともあり、名称をPL分科会から安全性審査会に改め、ISO9001の仕組みの中に入れ品質と安全性の向上を目指してまいります。

■安全性評価の仕組み



製品の安全性評価を行うPL分科会

※1 PL分科会(2008年4月より安全性審査会に名称変更)

※2 ISO9001品質マネジメントシステムへの取り込み

お客様のために— 2. より良い関係を

技術力、品質、サービス対応——信頼を育てるにはいくつものファクターが必要です。

社会人としての基本を守り、お客様とのより良い関係構築を通じて、KIMOTOはさらに信頼を高めていきます。

KIMOTOグラフィックスユーザーセミナーの開催

2007年7月、8年目となりました「KIMOTOグラフィックスユーザー会」が、164名(95社)のお客様にご参加いただき開催されました。

今回は、「短納期への対応と付加価値ある印刷物(出力物)」という課題で、①UV印刷の市場動向 ②UV印刷の事例 ③印刷用再剥離型ステッカーフィルム ④「当社製品」の紹介 ⑤マーケットの進捗が著しいPOD(Print On-demand)分野の市場と大判インクジェットプリンタの最新技術、などのテーマについてメーカー各社の専門家からご講演いただきました。また、特別講演として「アジアの風を読む」と題して、コリアレポート編集長の辺真一(ピョン・ジンイル)氏に、朝鮮半島の問題、外交面や経済状況などわかりやすくお話いただきました。

グラフィックス事業では、仕事に役立つ情報をご提供するとともに、人と人のふれあいをテーマとしてセミナーや内覧会・展示会を開催しております。



特別講演風景

メールマナー向上のための講習会実施

2007年11月、本社営業職の方を中心に、講師に有限会社アイ・コミュニケーション代表取締役の平野友朗氏をお招きして「ビジネスメール コミュニケーション講座」という内容で講義を行っていただきました。

参加者には事前にメールで課題が出され、それを添削するという形式で講習会は進められました。メールのマナーについては、手紙の書き方のような一般的な形式も存在しないため、適切な対応が必要となります。

今回のような講習会を通して社員の質を高め、顧客満足度の向上へとつなげていきたいと考えております。



ビジネスメールマナー講習会

社員コメント

ビジネスメールマナー講習会を終えて

グラフィックス営業部
安藤 資子



毎日何気なく使っているメールですが、マナーについて学ぶという機会は今回が初めてでした。講師の平野先生の記事はビジネス雑誌で拝見しておりましたが、実際にお話をうかがい大変勉強になりました。

講義を受けて“受け手がいかにわかりやすく読めるか”というあたりまえのようで見落としがちなコツを学び、また書き出しや結びに使えるフレーズ類もとても参考になりました。次回も各分野でご活躍されている先生方の講座を開催していただきたいと思います。

見やすい、役立つホームページへ

2007年8月、全社員を対象にKIMOTOオフィシャルサイトに関するアンケートを行いました。その結果、「もっと見やすいデザインにして欲しい」「内容をさらに充実させて欲しい」「更新を沢山して欲しい」といったさまざまな声が寄せられました。そこで、オフィシャルサイトの全面リニューアルに踏み切りました。リニューアルにあたっては、各部署にサイトリニューアルの担当者を設置し、各部署からサイト管理担当者へ最新の情報が集まる体制を作りました。

今後も、多くの方の声を反映させ、サイトをより価値のある、役立つツールに育て、顧客満足度の向上につなげていきたいと考えております。



ホームページトップ画面
(注)デザインは多少変わる場合があります

TOPICS »

NHK 週刊こどもニュースが 3D造形システムを取材!

2007年7月に、NHK総合テレビ「週刊こどもニュース」の番組内で、KIMOTOの3D造形システムが紹介されました。放送は「ここまでできる人工衛星!」というテーマで特集が組まれ、その中で2006年1月に打ち上げられた陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)のデータと3Dプリンタ(DSIGNmate Cx)を組み合わせた新しいジオラマの作製手法という内容でKIMOTOのシステムが紹介され、全国で放映されました。「だいち」のデータを用いることで、これまで紙の地図上で表現されていた災害マップを立体ジオラマで素早く、わかりやすく住民に説明できるようになったことが紹介されました。多くの視聴者からの反響とお取引先様からのさまざまなご意見をいただき、今後の展開につながる有益な紹介の場となりました。



NHKの取材風景

社員コメント

NHKの取材を受けて

情報システム営業部
宇野 知樹



実際の放映は7月7日でしたが、取材を受けたのは1週間前で、造形シーンの撮影はもちろん、インタビューの内容などもリハーサルや打ち合わせはなくその場で決めていく形で進行了ました。

感心したのはディレクターのリーダーシップと人の乗せ方のうまさです。的確な指示の中、褒め言葉や笑いを誘うなど心配りが感じられ、緊張していましたが気持ちよく取材を受けていくことができました。

貴重な経験ができ、また、さまざまなアドバイスやご意見をいただき、大変意義のある取材だったと思います。

株主のために

企業価値を高め、株主・投資家の期待に応える——KIMOTOはこの基本を大切に、日々、積極的な企業情報の開示に努めています。

『日経IRフェア2007 STOCKWORLD』に出展

2007年8月、東京ビッグサイトで開催された個人投資家向けIRイベント『日経IRフェア2007 STOCKWORLD』に出展いたしました。会場では、約100社がブースを構え、日本経済新聞社の発表によると、2日間の来場者数は14,508名と盛況でした。

前年に引き続き2回目の出展ですが、約500名の方にブースへご来場いただき、KIMOTOの製品、技術について知っていただくよい機会となりました。

今後も、投資家の皆様とのコミュニケーションを積極的に推進するため、各種イベントへ参加していきたいと考えております。

株主還元

利益配分に関する基本方針

KIMOTOは、連結ベースでの業績に応じた利益の配分を基本とし、既存事業の体質強化ならびに将来の戦略分野への投資等に必要な資金を勘案し、配当を実施することとしております。連結ベースでの業績に応じた利益配分の指標としましては、年間連結配当性向20%程度を基準といたしておりますが、目標値といたしましては年間連結配当性向25%を掲げております。

この方針のもと、2008年3月期の配当金は1株当たり8円とさせていただきます。

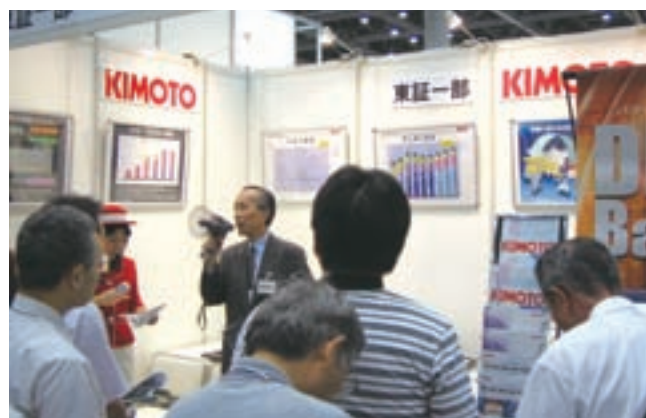
- ・年間配当金 16円（前年同期比4円増配）
- ・年間連結配当性向 26.3%（前年実績20.9%）

次期以降の配当金につきましては、連結ベースでの業績に応じた利益配分の指標としましては、年間連結配当性向20%以上を基準とし、目標値といたしましては年間連結配当性向30%を掲げてまいります。

株主通信をホームページに掲載

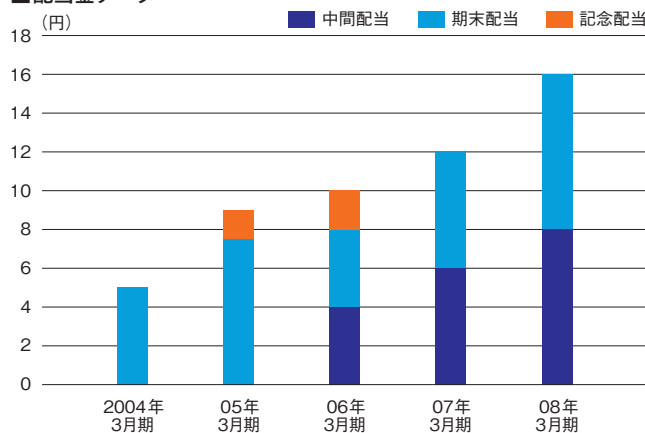
投資家の皆様への情報発信の窓口であるKIMOTOホームページ内のIRページの掲載内容を以下のとおり拡充いたしました。

- ・機関投資家向け会社説明会資料
- ・株主通信
- ・IRスケジュール



日経IRフェア2007「KIMOTOブース」

■配当金データ



	自己株式の取得結果
取得株式数	30万株（発行済株式総数に対する割合1.10%）
取得総額	192,586,400円
取得期間	2007年7月9日～07年9月14日
取得方法	東京証券取引所における市場買付

また、IRに関するお問い合わせがありましたら、以下の連絡先までお気軽にご連絡ください。

- ・連絡先
総務部IR担当 電話03-3350-4701
E-mail info@kimoto.co.jp
- ・HPアドレス <http://www.kimoto.co.jp/ir/index.html>

従業員のために — 1. 健康に、安全に

良い仕事は健康から、良い仕事は安全から。この二つを守ることから
充実した毎日が生まれます。

管理職向けメンタルヘルス・ケアセミナーの実施

メンタルヘルス・ケアについて、2007年7月に本社産業医
佐藤広之先生に社内講義を行っていただきました。メンタル
ヘルス・ケアには大きく分けて三つあり、一つ目が、自分がスト
レスに気づきストレスに対処していくセルフケア、二つ目が先
輩、上司、管理者によるラインケア、三つ目が社外の支援サー
ビスによるケアとなります。今回は部長、支店長を対象にセミ
ナーを行いましたので、ラインケア中心のお話となりました。

「いつもと違う」部下の把握と対応では、部下が落ち込んだ
時に見せる行動特性を挙げ、とにかくその部下に問いかけて
話を聞く積極的傾聴法を教えてくださいました。また、「こんな
上司11人が部下をダメにし、うつに追いやる!」では上司がし
てはいけない11の言動を示し、出席者が自分の行動を振り返
る機会を作るなど、90分では短いと感じる内容の講義でした。

工場での安全に対する取り組み

茨城、三重の両工場では、年2回の防災訓練において、消
火栓、消火器による初期消火、避難、誘導、通報・連絡、救護活
動などを実施しております。さらに、災害時における危険物の
漏洩を想定し、その環境影響を最小限に食い止めるために土
のう積み訓練も行っております。

また、工場では危険物および多くの機械設備を使用して生
産活動を行っているため、労働災害を未然に防止するための
定期的な安全パトロールを実施して、危険箇所、危険作業等
の抽出とその是正活動を行っております。

社員コメント

メンタルヘルス・ケア セミナーに参加して

人事部
真先 武彦



自分自身は比較的ストレス耐性がある方なので、自分を基準に部
下や他の人も、自分と同じストレス耐性を持っていると思って接しがち
でした。今回のセミナーを聞いて、その接し方は間違いであり、さまざ
まな人のさまざまな感情を認めなければいけないと感じました。また、
「こんな上司11人が部下をダメにし、うつに追いやる!」では三つ当
てはまる言動がありました。実際に参加して、勉強になり反省させられ
ることもあり、出席して良かったと思います。



土のう積み訓練風景

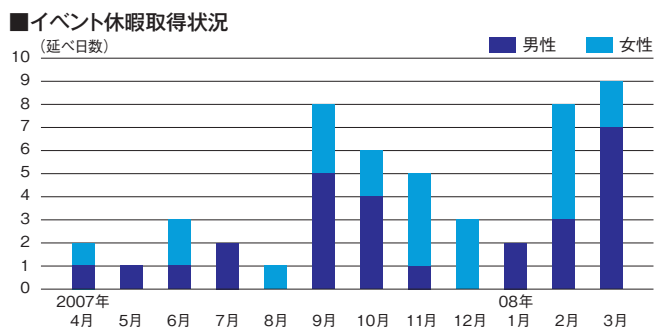
従業員のために—2. 働きがいのある職場づくり

一人ひとりの頑張りがKIMOTOを支えています。従業員のやる気こそ、あしたの希望の源泉であり、KIMOTOの成長を確実にします。

各種制度の制定とイベント休暇利用状況

働きやすい職場環境を目指し、各種制度の制定や改定などを行っております。

その中で、新しく導入されたイベント休暇は、性別に関係なく子育てに参加をしていただきたいとの思いから作られたもので、年次有給休暇とは別に取得しやすい特別休暇を新設しました。2007年4月～2008年3月までの1年間で利用状況は、のべ50日となっており有意義に活用されている制度の一つです。



ハラスメント講義の実施

CSR委員会のコンプライアンス部会では、2007年4月に「改正男女雇用機会均等法」が施行されたことを受けて、「ハラスメントについての講義」を管理職の方を対象に実施しました。

講師には、株式会社カウンセリング・コール代表取締役の秋葉ふきこ氏を本社にお招きし、4名から5名で構成されたグループごとに、ケーススタディー等も入れた参加型の講義形式で行われました。

このハラスメント講義を契機として、2008年夏には「ハラ

階層別研修会

KIMOTOビジネススクールは、開講して5年が経ちました。社員教育として各階層別に計9回の研修を実施しました。

管理職層に対しては、経営知識の強化を図るための目標設定や労務管理を、事務職の研修では、問題解決とコミュニケーションスキルについて研修を実施しました。事務職研修は初の試みであったため、予想以上の盛り上がりとなりました。

社員のますますのスキルアップに期待し、今後も環境変化に対応できる社員育成に力を入れていきたいと考えております。

社員コメント

イベント休暇で大助かり

研究部
柴田 寛



「保育所夏祭り」「長女の保育参観」「長男の保育参観」と3日間のイベント休暇を取得しました。育児にとっては、金銭的な援助も助かりますが、子供のイベントや看護など、実は時間的な援助が最も必要だと感じています。

KIMOTOでは、この他に看護休暇もあり、時間的な援助に関しては、他社より一歩進んでいると思います。

私を含めて夫婦共働きで育児をする家庭が増えていると思います。今後も仕事と育児が両立できる職場環境づくりに積極的に取り組んでもらえると助かります。

スメント等に関する外部相談窓口」を設置予定です。今後も、職場環境の向上等から従業員の満足度を高めていく活動を一歩ずつ進めてまいります。



ハラスメント講義風景

社員コメント

すべてはコミュニケーションから

営業本部
田畑 明子



研修に参加して、あらためて「コミュニケーションの大切さ」をとても強く感じました。

また、同じ社内にながら普段電話でしか話したことのない人や、名前も知らなかった人たちと同じテーブルを囲み、同じテーマについて話し合うことで、今まで気付かなかった問題点やそれらを回避する方法等もいろいろな視点から考えることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

Polar Star プロジェクト

2006年4月より、実務教育の充実を図るために「Polar Star プロジェクト」を三重工場で発足いたしました。このプロジェクトは、三重工場での作業工程に関する教育プログラムの社内構築を行っており、特に新入社員の「道しるべ」になりうるような映像を主体にした教育システムを目指しております。

2007年4月からは、茨城工場においても教育プログラムの作成が始まり、現在では三重と茨城の両工場において年間約70工程の映像実務教育プログラムが作成されております。

社員コメント

映像でわかりやすい 教育プログラムを

三重工場
(左) 中川 浩 (右) 谷口 則男



映像制作については、担当者とのコミュニケーションや写される側の慣れも必要とされます。時には、予想外に制作時間がかかってしまい日程調整に苦労することもありました。しかし、映像が蓄積されていく過程において、工程改善および工場間の情報共有ツールとしての活用など新たな用途展開もあり、やりがいのある業務であると感じております。

今後も、よりわかりやすい教育プログラムを作成していきたいと思っております。

TOPICS »

三重工場で「家族慰安会」開催

KIMOTO 三重工場では、従業員だけではなく、ご家族の方も招いて「家族慰安会」を2007年6月に行いました。これは、ご家族への慰労とコミュニケーションの場になればとの考えから実現したものです。

当日は、三重工場敷地内のグラウンドを使用し、従業員がやさそば・たこ焼き・フランクフルトなどの屋台を出店し、スーパーボールすくい・ヨーヨーつり・わなげなどのイベントも行われました。



開催風景

晴天の下、参加した子供達は、芝生の上を走り回って遊び、屋台の食べ物をいっぱい食べ、多くの笑顔の中で慰安会は終了いたしました。

参加してくださった家族の方達は「また来年も行っていきたい」「普段お会いする事のできない、同僚の子供さんに会えて良かった」、子供達からは「屋台の食べ物がおいしかった」「楽しかった」などの嬉しいコメントをいただいております。



スーパーボールすくいは大人気

地域社会への貢献

小さな前進でも一歩ずつ。KIMOTOは、どんなに小さなことでも、自分たちにできることがあれば必ず実行に移します。

各部署での地域交流推進の取り組み

1. 支店・工場周辺清掃

支店および工場では、始業時間前の早朝や週末を利用し、事業所周辺の清掃を積極的に行っております。



清掃風景

2. 東京マラソンのコース周辺歩道のガム取り運動

本社情報システム営業部は、NPO法人環境まちづくりネット主催で行われた、第2回東京マラソンのコース周辺歩道のガム取り運動に参加しました。始業時間前の早朝を利用し、本社があり今回のマラソンコースとなっていた、新宿区の靖国通り沿いの歩道ガム取りを約1時間行いました。このガム取り運動は、ボランティアに支えられており、今後もこのような活動に参加したいと考えております。



ガム取り運動風景

3. 第3回KIMOTO杯スポーツ少年団軟式野球大会開催

KIMOTO杯は、3回目となり、野球を通じて地域の活性化を行う事を目的に、三重県いなべ市にある三重工場で開催しております。今回は、2007年7月にいなべ市および東員町の少年野球チーム13チームが参加して、トーナメント方式で行われました。工場従業員有志により運営されており、ゲームの間にかき氷が振る舞われ、子供たちに大好評でした。



KIMOTO 杯の優勝チーム

4. フリーマーケット

CSR委員会の環境・安全部会では、前年に引き続き2007年11月にフリーマーケットに参加しました。メンバーは新しくなりましたが、「地域貢献・地域交流活動」の重要性は新メンバーにも引き継がれ、各自が持ち寄った品物(本・CD・DVD・タオルセット・皿・グラスセット等)の売上金を、日本赤十字社へ全額寄付いたしました。



フリーマーケット

5. カレンダーリサイクル市2008へ寄付

札幌ユネスコ協会が主催して行われた「カレンダーリサイクル市2008」に、札幌支店がカレンダーや手帳などの寄付を行いました。この催しは団体、企業、個人あわせて約800名の提供者によって行われ、売上金は道内ボランティア活動の支援金やユネスコ活動に寄付されます。

6. インターンシップの受け入れ

毎年、在学中の方々に将来（就職）を考えるうえで少しでもお役に立てればとの考えから、インターンシップの受け入れを積極的に行っております。

三重工場および茨城工場では、近隣の中学校や高校からの生徒を受け入れ、職場体験をととして社会で働くことを実感していただいております。

また、本社、技術開発センターでは大学生のインターンシップを受け入れ、実際の仕事を体験していただいております。

三重工場では、インターンシップ以外に、地元老人会を招いた工場見学なども行っております。

7. 「まもらいだー」

2007年3月から、仙台支店では仙台市防犯車両「まもらいだー」に参加しており、現在も継続して活動を行っております。KIMOTO所有の「まもらいだー号」への児童の駆け込みや、犯罪の現場に遭遇することはありませんでした。

今回の活動は、犯罪の抑止効果だけではなく、社員のモラル向上にも非常に役立っております。

仙台支店では、2007年7月に仙台市防犯協会連合会の賛助会員にも登録しました。

TOPICS »

カラーユニバーサルデザインへの取り組み

メディア（新聞・雑誌など）から発信される記事や広告、公共施設・博物館・展示会場・病院などのフロア案内図面、さらには携帯電話、自動販売機、ATMなどの電子機器の画面など、私たちの身の回りにはカラー情報が多くなり、「色」は重要な情報伝達手段となっています。

しかし、人間の色の感じ方は一様ではありません。遺伝子タイプの違いや目の疾患によって色の見え方が一般の人と異なる方は、日本人では男性の20人に1人、女性の500人に1人の割合となり、約300万人以上と言われております。

多様な色覚を持つさまざまな人に考慮して、なるべくすべての人に情報がきちんと伝わるように利用者側の視点に立って作られたデザインを「カラーユニバーサルデザイン」と言います。また、NPO法人「カラーユニバーサルデザイン機構」（略称CUDO）がカラーユニバーサルデザインに配慮して作られていると認定した製品には「CUDO」マークが発行され、「ひとにやさしい社会づくり」に貢献しているという証になります。

社員コメント

ひとにやさしいカラー情報を

営業本部
販売推進・商品企画部
内山 久美子



KIMOTOでは、カラーユニバーサルデザインを取り込もうと検討されているお客様にツールをご紹介しております。また、色覚シミュレーションモニターをKIMOTOショールームに常設し、自社のカタログデータをチェックしたり、グラフィックス営業部取扱商品のデモンストレーションの際にお客様にご紹介し、ユニバーサルデザインの啓蒙に努めてまいりました。

今後は、KIMOTOが発信するさまざまなカラー情報を「ひとにやさしいカラー情報」として、カラーユニバーサルの視点から発信していきたいと考えております。

安全への貢献

従業員や来訪者の万が一に備えて。KIMOTOは、全事業所に自動体外式除細動器（AED）を設置し、講習会も実施しました。

AEDの設置と講習会の実施

2007年度、KIMOTOの全事業所に自動体外式除細動器（AED）を設置しました。設置にともない事業所ごとに数名の従業員が普通救命講習に参加し、CPR（心肺蘇生法）やAEDの実習を行いました。

AEDは決して万能ではありませんが、従業員や来客者の尊い命を緊急時に救うことができる可能性を高めることができます。また、講習会などを通じて、従業員の相互の人命救助意識向上と、安心して仕事のできる環境を構築することができると考えております。

今後も、CSR委員会の環境・安全部会が中心となり、普通救命講習の受講を推進してまいります。また、AEDの設置を外部に明示することにより、緊急時の地域貢献につなげていきたいと考えております。



AEDの実習風景

交通安全講習会の実施

毎年開催しております「交通安全講習会」を、2007年度も11月から全国各拠点において実施しました。

講習会では、以下のポイントに重点をおきました。

1. 2007年9月19日から「改正道路交通法」が一部施行されました。
大きな改正点は
①飲酒運転＆酒気帯び運転者への厳罰化
②酒類・車両提供者や同乗者への罰則の新設
2. 当社の運転服務規程の一部改正（2007年9月1日施行）

今後も継続的に啓蒙を行い、従業員の交通安全への意識向上を図っていきたいと考えております。

社員コメント（AED設置）

AEDの説明会に参加して

茨城工場
小池 英明



AED設置にあたり、使用法の説明会に参加しました。

電極パッドは、どこに貼ればよいかは絵に描いてあり、AEDの音声ガイダンスをしっかりと聞き、指示に従えば大丈夫ということでした。

多くの人がAEDの使い方を知って覚えていれば、工場内外を問わず、私が誰かを助けることがあるかもしれませんし、私や家族も誰かに助けてもらうときがあるかもしれません。AEDの使用法の普及は大切であると実感しました。



交通安全講習会

環境保全活動 — 1. 環境マネジメント

大気汚染や有害物質の使用に対する社会の目はますます厳しくなっています。
KIMOTOは、地球の一員としての責任を全うします。

技術部門環境方針の変更

EU（欧州連合）では、2006年7月より特定有害物質の使用を制限する規制（RoHS 指令）が施行され、ますます環境関連物質に対する要求が強化されてきました。KIMOTOでは、機能性フィルム製品の環境負荷の低減を目的として、従来のQMS、EMSに加えて「化学物質管理システム」を構築し、2007年9月より運用を開始いたしました。

それにともない、「技術部門 環境方針」も改められ、“環境負荷物質の管理体制構築と管理強化”が盛り込まれました。

ISO 認証取得

KIMOTOでは、2001年、三重工場において環境マネジメントシステム【ISO14001:1996JSAE938】の認証を取得しております。さらに2002年には、茨城工場、物流センター（茨城、三重）、技術開発センター（研究部、eAI技術部）が拡大認証を取得、環境方針を定めて環境改善に取り組んでおります。

なお、2005年に2004年度版への移行を行っております。また、2007年は、市場の要求もあり環境化学物質に対応するために化学物質管理チームを組織化しております。

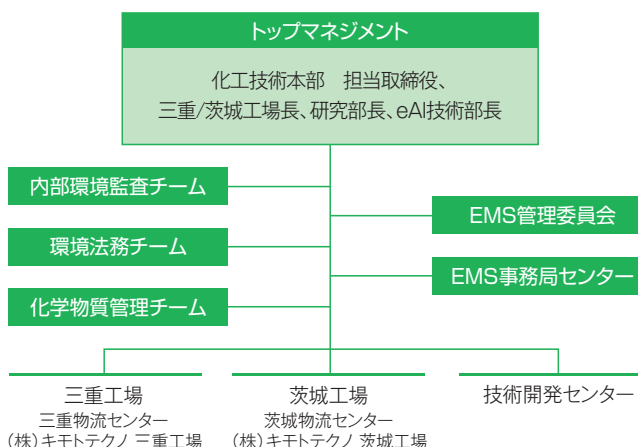
環境監査

KIMOTOのISO14001 審査登録事業所では、定期的に審査機関による外部監査を受けるとともに、内部監査員による内部環境監査を年2回実施しております。2007年度は、7月、12月の2回、登録事業所の全組織を対象に延べ102名の監査員により実施いたしました。

監査結果には環境マネジメントシステムから大きく逸脱している不適合は認められていませんが、軽微な指摘事項が総計34件検出されたため、速やかに是正処置を講じております。

外部監査につきましては、2008年2月に審査登録機関による定期維持審査が行われ改善課題3件の指摘を受けましたが、「登録継続」が承認されております。

■EMS組織図



■内部環境監査結果（2007年度実施）

	被監査部署数	監査員数	指摘事項件数
2007.07	42	47	6
2007.12	43	55	28
合計	85	102	34

環境保全活動—2. 地球温暖化防止活動

できることから大胆に。CO₂の排出抑制は、待ったなしの状況が迫っています。
私たちの中で、果たせる責任に徹底して取り組みます。

地球温暖化ガス排出削減目標

KIMOTOは、主にコーティング法によって機能性フィルム製品を製造しており、製造過程や廃棄物処理、営業活動によって温暖化ガス（主に炭酸ガス）を発生しております。

KIMOTOの炭酸ガス排出量はグラフのように、1990年と2006年を比較すると増加していますが、原単位ではやや改善されています。

CSR委員会の環境・安全部会およびEMSにおいて削減方法や削減可能性を検討した結果、KIMOTOの炭酸ガス削減目標を以下のように決定しました。

目 標

「2010年度に、原単位で1990年度比10%二酸化炭素を削減する。削減方法として、工場を中心とした設備投資で削減量の半分の、残りを歩留改善などの全社的取組で削減する。」

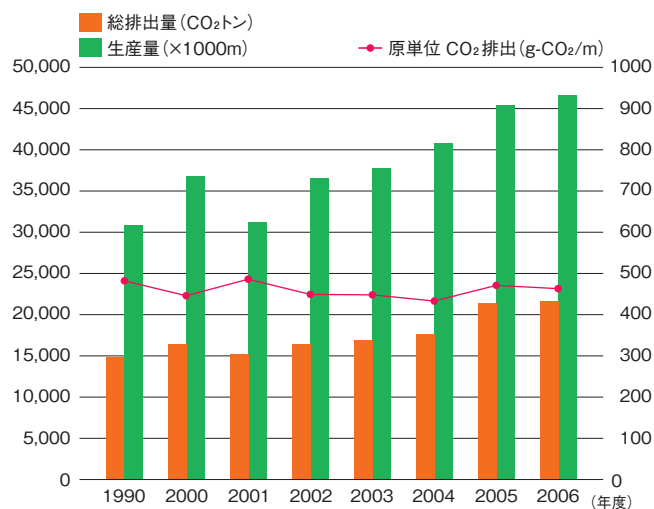
主な削減方法は、工場の設備改善、営業車をハイブリッドカーに変更するなどです。また、それ以外にも全社的なクールビズをはじめとする省エネ、省資源の推進および生産効率向上による削減を計画しております。

クールビズの実施

環境保全活動の一環として2007年7月～9月末日まで、「クールビズ2007」に参加いたしました。

地球温暖化対策の重要性が広く認識される中、CO₂排出量を少しでも減らすために、冷房設定温度を上げた省エネ活動を全社で行いました。期間中は、社内にクールビズ活動中であることを示すポスターを掲示して、KIMOTOへお越しいただく皆様にもクールビズへのご協力をお願いしました。今回が初めての参加であったために、お越しいただくお客様に失礼とならないように配慮しましたが、環境保全活動に全社で取り組むことで、社員の環境意識が向上いたしました。

■CO₂排出量



クールビズポスター

グリーン購入・グリーン調達への取り組み

KIMOTOでは、品質および環境ISOのマネジメントシステムを構築しており、その一環として、グリーン購入法に準拠して環境に配慮した文具や事務用品などを購入する手順を文書化し、グリーン購入活動を推進しております。

また、今後のグリーン調達実施に向けて化学物質管理システムを見直しております。

チーム・マイナス6%

2005年より、地球温暖化防止のための国民運動「チーム・マイナス6%」に「株式会社きもと」として参加しております。

以前より、節電、節水、省エネ等と呼びかけるため、ステッカーなどを事務所内に貼るなど、従業員の意識の啓蒙を推進してきました。今後も、さらなる意識向上のための取り組みを積極的に推進してまいります。

TOPICS »

リニューアルした茨城工場 ～人と地球環境にやさしく～

茨城工場では、作業環境の改善のため本棟の建て替えを行いました。

工事は、樹齢約40年の桜を切ることからスタートしました。これは、工場敷地が狭い茨城工場にとって、苦渋の決断でした。

設計にあたっては「人と地球環境にやさしく」をキーワードとして、居室を一つにまとめることによる出力機の大幅な台数削減、天井扇（シーリングファン）利用による冷暖房の効率化、トイレでの人感センサー使用による消費電力の削減を行いました。さらに、2階の窓には、紫外線、赤外線をカットする機能とセルフクリーニング機能を併せ持つ自社製品「ラククリーンDUO」を施工し、その効果を皆で体感しています。また、多

目的室には、ディスプレイ装置として、自社製品の100インチ「ディラッドスクリーン」と150インチ「電動スクリーン」を設置し、テレビ放映や全体朝礼などで毎日利用しています。

それ以外にも、24時間稼働している工場の従業員が十分な休憩をとれるように、充実した設備の休憩室も用意しました。この部屋の窓からは、新しく植樹したソメイヨシノや季節の花を見る事ができます。

現在は、太陽光発電装置を設置すべく検討を重ねております。今後も、茨城工場では「人と地球環境にやさしく」をモットーに生産活動に励んでまいります。



本棟外観



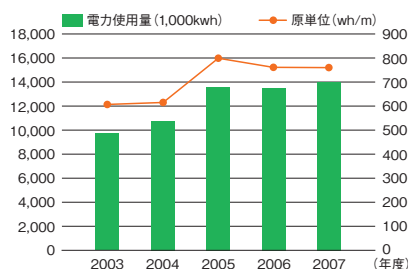
シーリングファン

環境保全活動—3. 環境データ

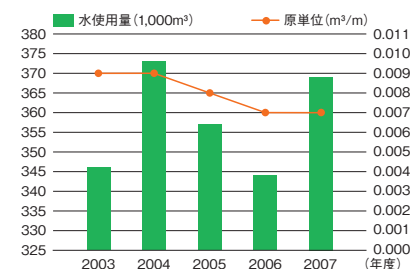
電力、用水、燃料—KIMOTOはこれらの一つひとつに目標数値を掲げながら、データの把握に努めています。

工場環境データ

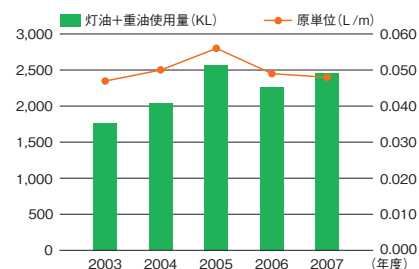
■電力使用量



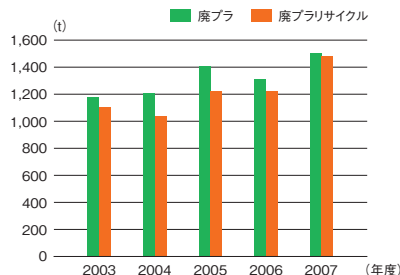
■用水使用量



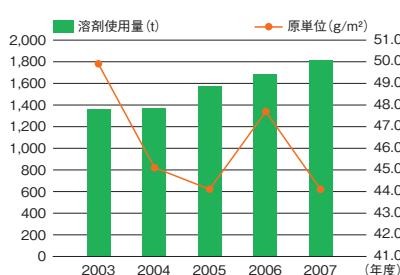
■燃料使用量



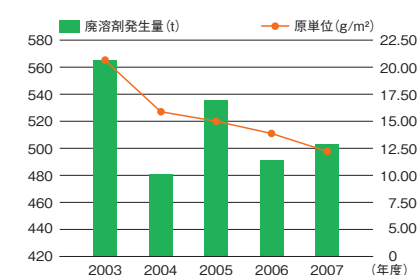
■廃プラスチック発生量



■有機溶剤使用量



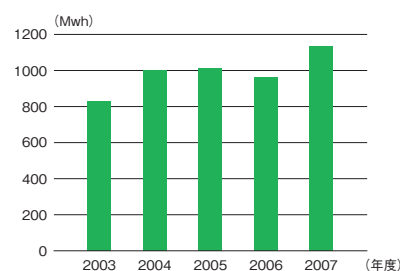
■廃溶剤発生量



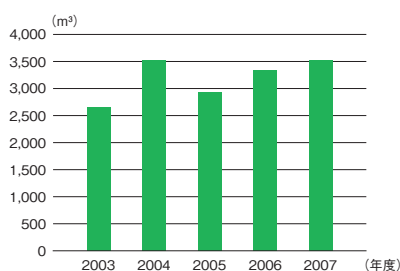
注1) 原単位とは、使用量を当社フィルム製品の製造量(m,m²数)で割ったものです。
注2) 集計方法の変更に伴い、一部データが昨年の数値と異なっています。

技術開発センター環境データ

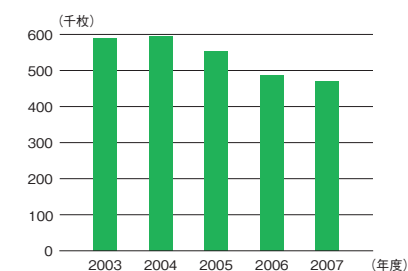
■電力使用量



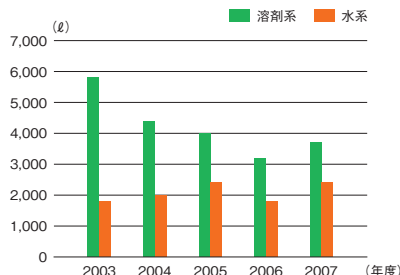
■水道水使用量



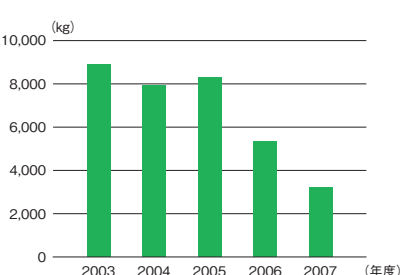
■コピー紙使用量



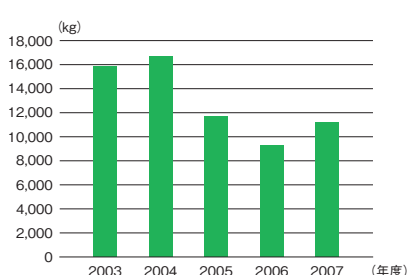
■廃油発生量



■一般廃棄物発生量



■廃プラスチック類発生量



CSRを企業活動の核に

社会の中で、社会とともに。KIMOTOは、社会に開かれた企業として、本業をとおり社会的な役割を全うします。

株式会社きもと CSR基本方針

株式会社きもとは、事業活動に伴い生み出される経済的価値のみに着目することなく、自発的に社会的価値と責任を重視し社会の持続的な発展に貢献する経営を行うために、以下の方針を定める。

- ・事業活動にかかわる法律を遵守し、善良な企業あるいは企業人としての姿を追求する。
- ・環境保全活動に注力し、可能な限り環境負荷を低減する事業活動を展開する。
- ・顧客重視の事業活動を行う事で、顧客との相互発展を通じて社会貢献を目指す。

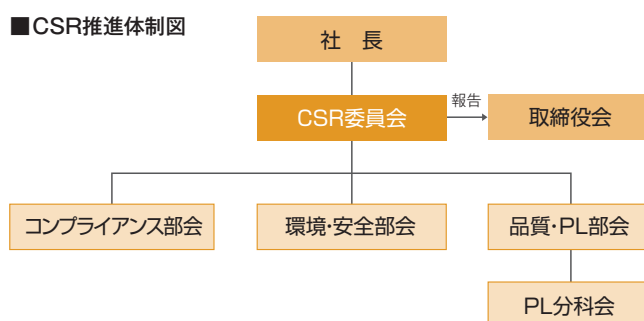
代表取締役社長 丸山 良克

CSR推進体制

企業が求められている社会的責任がますます広範にわたり、全社・全組織での対応が現在必要とされている中、KIMOTOでは2005年に「CSR委員会」を発足、活動して3年目となりました。

CSR委員会には「コンプライアンス部会」「環境・安全部会」「品質・PL部会」の3部会と品質・PL部会の中に「PL分科会」を設置し、各組織への方向付けと活動推進に注力しております。

■CSR推進体制図



CSRの啓発活動（CSR説明会）

従業員のCSR活動への意識を統一するため、CSR事務局が直接全国の支店、営業所、技術開発センター、各工場へ行き説明会を行いました。

昨年に比べて各部署のCSR活動に取り組む姿勢や認識が高まっており、今後も活発な意見や提案が出てくるように啓蒙活動を推進してまいります。



CSR説明会

コーポレート・ガバナンス

KIMOTOは、公正な企業活動を旨とし、幅広いステークホルダーに対する責任を全うするため、常に十分な説明責任を果たします。

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

KIMOTOグループは、取締役会、監査役会を基本に継続的なコーポレート・ガバナンスの充実が経営の最優先課題であると考え、諸制度の整備と透明性の高い情報開示の実施を適時行くとともに、高い自律性、効率性ならびに競争力のある経営体制の確立を目指し、企業価値の向上を図っております。

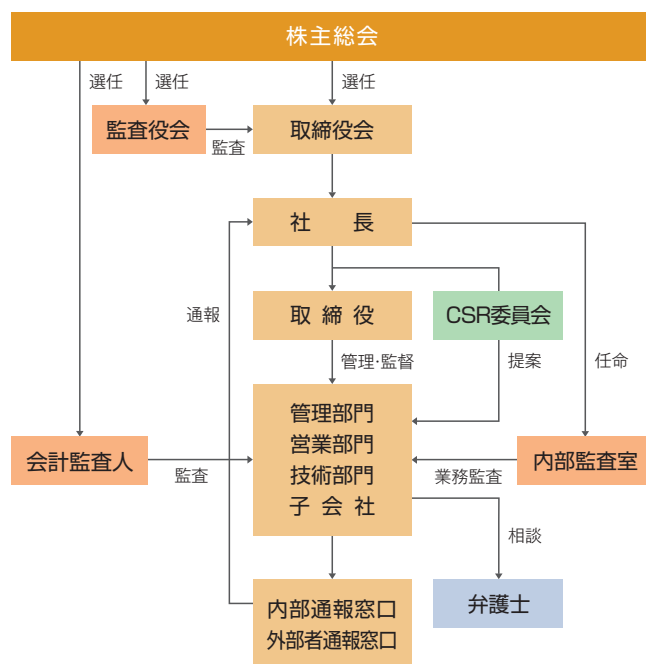
KIMOTOにおいては、株主の皆様に対する経営陣の責任を明確化するため、取締役の任期を1年としております。また、経営会議、常務会等を設置せず、重要な業務執行および法定事項の決定ならびに業務執行の監督は、すべて取締役会で行っております。常勤監査役および社外監査役は、定例に開催される全ての取締役会に出席し必要な意見を述べるとともに、取締役の業務執行状況の監査を実施しております。また、監査役のサポート体制の充実を図るため、2007年7月より監査役スタッフ1名を選定いたしました。

KIMOTOは、以上のようなコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方に基づく諸施策を実行し、企業価値または株主共同の利益の確保・向上を目指してまいります。

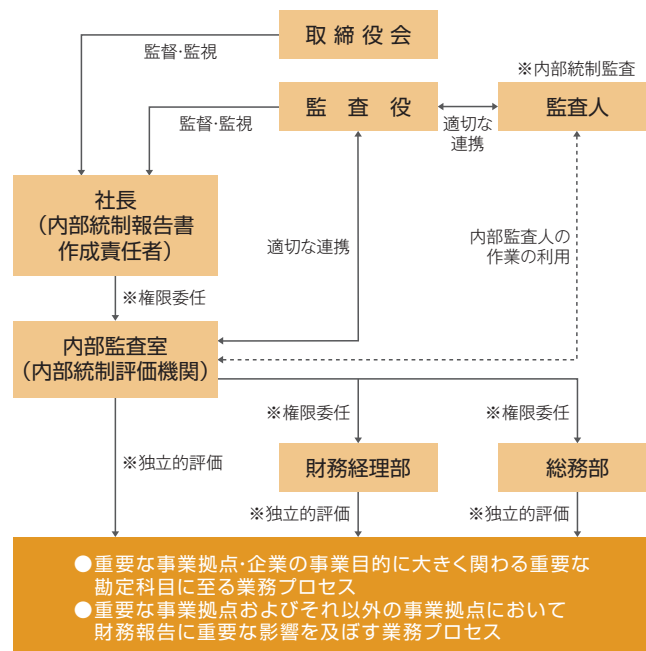
内部統制システムの構築

KIMOTOでは「財務報告に係る内部統制」を2008年4月に実施することを目指して、2007年1月にプロジェクトチームを発足させ整備を進めてまいりました。メンバーは、「内部統制」という概念の理解から始め、さらには監査法人の助言を得て着実にプロジェクト活動を展開いたしました。

今後は、財務報告に係る内部統制の有効性を確保するため、KIMOTOグループの全員が力を合わせてまいります。



■財務報告に係る内部統制の評価体制



評価対象となる業務プロセスを所管する所属長または日常の業務を遂行する者は財務報告に係る内部統制の自己点検を実施する。

コンプライアンス

広く社会の要請に応え、法令の遵守はもちろん、個人の基本的な権利を尊重します。
不当な圧力には会社をあげて毅然とした態度で臨みます。

反社会的勢力との関係遮断宣言

当社は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力には、毅然かつ断固とした態度をもって対応し、反社会的勢力の資金源を枯渇させ、その活動基盤を与えないために、当社「反社会的勢力排除に向けた基本方針」に基づき、反社会的勢力との関係を一切遮断することを宣言いたします。

代表取締役社長 丸山 良克

反社会的勢力の不当要求に対する 対応マニュアルの作成

近年、反社会的勢力（暴力団などによる民事介入暴力）の法人・個人に対する介入は非常に多様化・巧妙化しております。KIMOTOではすでに企業行動規範および社内規程に反社会的勢力とは一切関わらないことを明記しておりますが、さまざまなケースに対応できるような具体的な内容とするために、CSR委員会のコンプライアンス部会で「対応マニュアル」を作成しました。

対応マニュアルの作成にあたり、（社）警視庁管内特殊暴力防止対策連合会の開催する対策研修会に参加して検討を重ね、実用性の高い対応マニュアルにまとめました。

マニュアルは全社に周知徹底しております。

eAI技術部の情報管理について

情報システム事業部門では、地理空間情報システムのデータとして、顧客から個人情報をお預かりし、加工することがあります。

eAI技術部では、データの受け渡し、輸送、保管、加工のすべてのプロセスで、情報管理規程とISMSを厳守し、情報の盗難・漏洩・紛失・盗み見・改ざんが発生しないよう、従業員すべての業務活動を記録に残しています。

特に、事業所内では携帯可能な記録媒体の所持や使用を禁じたり、顧客とのデータや書類の受け渡しは、施錠可能な金属ケースへの収納やデータを暗号化するなどの措置を講じています。

情報管理規程見直し、説明会の実施

内部統制強化の流れを受けて、既存の情報セキュリティ体制を再検討して情報管理規程の全文改定を行うとともに、社有パソコンやネットワーク・電子メール利用に関する細則を制定いたしました。さらに、全従業員が共通の認識の下に機密レベルの特定や管理ができるよう、機密レベルの基準要領も定めました。その後、全国の支店・工場における説明会、ポスターの掲示などにより、従業員に対する周知徹底をはかりました。



入館管理システム

子会社での取り組み

欧州・米国・中国の海外5社と国内3社。KIMOTOのネットワークは着実な広がりを見せています。事業の広がりには責任の広がりでもあるのです。

■グループ概要



取り組み内容

各子会社では、地域に根ざした取り組みや、従業員満足のための取り組みなどが行われております。

KIMOTO TECH, INC.

KIMOTO TECH, INC. の敷地内グラウンドを、リトルリーグベースボールチームなどのスポーツグループに無料開放しております。また、地元の高校生を対象に、工場見学ツアーおよび実際の製品やビジネス内容の説明会を実施しました。これをきっかけに社会的知識向上へ貢献できればと考えております。

それ以外にも、地元シーダータウンの各公共団体への寄付金活動を行っております。

KIMOTO AG

毎年1回、社員および家族、OBの方が参加して相互のコミュニケーションのために慰安旅行を実施しております。また、サッカーチームを結成し、定期的に周辺の企業との親善試合を行っております。

瀋陽木本実業有限公司

2007年4月に、瀋陽市東陵区において植樹を行いました。ボランティアの従業員が合計43本の木を植え、環境美化に努めました。また、5月には近隣の公園清掃を行っております。

環境美化活動以外にも、従業員相互のコミュニケーション向上のため、スポーツ大会や従業員の家族も招いた慰安会など、各種イベントを行っております。



中国瀋陽市での植樹
(瀋陽木本実業有限公司)



河川での清掃風景
(瀋陽木本実業有限公司)

編集後記

KIMOTOでは、CSR活動の中心となる3部会には様々な部署、職種、職位の社員がメンバーとして参加しており、日常業務と異なる視点で十分に話し合う中から、より良い企業づくりのための新鮮な提案が生まれています。私たちは、企業人であると同時に地域住民でもあり、例えば地球環境保全などを考えるうえでも多角的な視点が重要と考えております。

今回のレポートでは、KIMOTOのご理解を深めていただくために、社員のコメントを多く掲載させていただきました。また、徐々に増えてきた地域貢献活動もご紹介しております。今後も、ステークホルダーの皆様のご意見を賜りながら、グループ全社の着実なCSR活動をすすめてまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

常務取締役
経営企画本部長
CSR委員長
山縣 敏雄



株式会社 きもと

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-19-1
TEL:03-3350-4704 FAX:03-3350-9380
<http://www.kimoto.co.jp/>

KIMOTO

株式会社 きもと

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-19-1

TEL. 03-3350-4704

FAX. 03-3350-9380

<http://www.kimoto.co.jp/>



このCSRレポートは、FSC 認証紙とアメリカ大豆協会認定の大豆油インキを使用しています。